



2018 国際ゴールドマスターズ 奈良大会

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は、2018年 I A A F 競技規則、日本陸上競技連盟競技規則、WMA 競技規則、日本マスターズ陸上競技連合競技規則、2018国際ゴールドマスターズ奈良大会競技注意事項並びに申し合わせ事項により実施する。

2 練習会場について

(1) 練習の時間帯は下記の通り。

	本競技場	補助競技場
10月26日(金)	9:00 ~ 16:00	—
10月27日(土)	7:30 ~ 8:20	7:30 ~ 16:00
10月28日(日)	7:30 ~ 8:20	7:30 ~ 16:00

※ 本競技場の練習は競技運営の準備を並行して行うので注意すること。

(2) 練習は指定された場所・時間で行い、事故防止には万全を期すこと。なお、練習中に発生した疾病や傷害等については、主催者において応急処置は行うが、以降の責任は負わない。

(3) 会場内への入退場は、必ず ID カードを提示すること。また、荷物等については個人が責任を持って管理すること。

(4) 補助競技場では、競技が実施されるので、練習時間・場所の制限がある。使用にあたっては、競技役員の指示に従うこと。

3 招集について

競技に出場しようとする者(以下「競技者」という)は、招集所において競技役員に出場の手続きをし、点呼を受けなければならない。

(1) 招集場所は、本競技場 第4ゲート(100mスタート)外側付近に設ける。

(2) 各種目の招集開始時刻・完了時刻は、プログラムの競技日程欄に記載されている。

種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技 各クラス・各種目	30分前	20分前
フィールド競技 各クラス・各種目	40分前	30分前
フィールド競技 棒高跳	60分前	50分前

時間厳守 上記の時間に遅れた競技者は、出場できない。

(3) 招集の方法については、次のとおりである。

① 招集開始時刻に招集所で競技者係の点呼を受ける。その際、ナンバーカード・スパイクピン・商標の点検を受ける。トラック競技のみ腰ナンバー標識を受け取る。

② 代理人による最終点呼は認めない。他種目同時に出場する競技者は、あらかじめその旨を、招集所(競技者係)へ申し出て、指示に従うこと。

③ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該種目については棄権とみなして処理する。

(4) 招集所からスタートライン・跳躍場・投てき場へ移動する場合は、競技者係の指示に従うこと。

(5) 棒高跳に出場の競技者は、自己申告にて競技開始時刻を編成しているので、招集所にて確認すること。

4 ナンバーカードについて

(1) ナンバーカードは、競技者受付時に1人につき2枚交付する。

(2) 競技者は、公布されたナンバーカードをユニフォームの胸と背に、安全ピンで4隅をとめること。但し、跳躍競技に出場する競技者は、胸または背のいずれかでよい。走幅跳・三段跳は、胸に付ける方が運営上好ましい。

(3) トラック競技に出場する競技者には、招集所で腰ナンバーカードを配布するので、ランニングパンツの右腰横やや後方に付けること。1500m以上の競技については、腰ナンバーカード2枚を左右の腰に付けること。

(4) 配布されたナンバーカードは、競技終了後に競技者各自で責任を持って破棄すること。

5 競技場への入退場について

(1) 競技場への入場は、招集所より競技役員の指示または誘導によって行う。

(2) 退場は、下記の通り。

① トラック競技

競技役員の指示による。

結果が判明次第(アナウンス及び掲示板の成績結果で確認)、1~3位の入賞者は、表彰者待機場所へ移動



2018 国際ゴールドマスターズ 奈良大会

する。

② フィールド競技

競技役員の指示による。

1～3位の入賞者は、競技終了後競技役員の指示により、表彰者待機場所へ移動する。

6 事故防止について

(1) 本大会期間中、すべての競技者は、競技役員(セーフティジャッジ及びセーフティジャッジ以外の競技役員)から、「競技への出場または、競技の続行が危険」と判定された場合は、その時点で競技出場及び協議続行はできない。

(2) 競技者は、セーフティジャッジ及び競技役員の判定に従わなければならない。

(3) 判定に従わずに競技に出場または続行した場合の記録・順位は一切認めない。

7 競技について

(1) 競技者の出場する競技種目の変更・追加は一切認めない。

(2) 年齢に不正があった場合は、失格となる。

(3) トラック競技について

① トラック競技の計時は、すべて写真判定装置を使用する。

② 同クラスが複数組の場合、すべてタイムレース決勝とする。

③ 同タイムの場合の順位は、着差がない場合、生年月日の早い者を上位とする。

④ 短距離種目では、競技者の安全のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走る。

⑤ 不正スタートをした競技者は1回目で失格とする。

⑥ 次の種目はクラスごとに制限時間を設け、時間が過ぎた場合には、新しい周回に入らない。但し、複数のクラスをまとめて組とした場合は、長い方の制限時間を適用する。

3000m	M60～90・W50～80 = 18分
5000m	M55 以下・W45 以下 = 20分
2000mSC	M60～75・W75 以下 = 11分
3000mSC	M55 以下 = 13分
3000mW	M60～90・W80 以下 = 25分
5000mW	M55 以下 = 35分

※ 競技進行上、800mで6分、1500mで10分を超える競技者の競技を中止することもある。

⑦ 1500m・3000m・5000m・1マイル・3000mW・5000mWは、補助競技場で行う。

⑧ リレー登録者以外の競技者を走者とする場合、変更は本大会参加者より2名以内とする。但し、個人種目にエントリーしていない競技者が出場することはできない。

⑨ リレーチームの代表は、リレーオーダー用紙に必要事項を記入の上、招集完了時刻の1時間前までに招集所に提出すること。リレーオーダー用紙は招集所競技役員から受け取ること。なお、オーダー用紙提出後の選手変更は認めない。

⑩ 上記以外に、エキシビジョンレースを行う。

⑪ ハードル競技・障害物競走の種目別基準は、大会要項の別表1の通りとする。

⑫ 障害物競走では、障害物に手をかけて越えてもよいが、連続した動作でなければならない。障害物をよじ登れば失格となる。また、障害物の中間のバーまたはクロスバー等に足をかけて上がってはならない。

(2) 跳躍競技について

① 試技順は、全競技についてプログラム記載の番号順とする。競技中に他の競技に出場する場合は、審判主任に申し出ること。その場合、トラック競技を優先し、フィールド競技については本人の希望による。試技順を適宜変更するが、その試技中に失った試技を要求することはできない。

② 走幅跳・三段跳・立五段跳の試技数は、各クラスのトップ8(同記録の競技者が複数ある場合はそのすべて)を決めるまでは、3回とする。トップ8による4回目以降の試技数は1回とする。競技進行上、4回目の試技順もプログラム記載の番号順とする。

③ 走高跳及び棒高跳以外で同記録の場合は、2番目の記録で順位を決める。それでも決められない場合は、3番目の記録で比較し、以下同様にして決める。それでも決められない場合は、生年月日の早い者を上位とする。

④ 走高跳・棒高跳のバーの上げ方の基準は、大会要項の別表1の通りとする。但し、グラウンドコンディションや参加者の状況によっては、跳躍審判長の判断により変更して実施することがある。

⑤ 走高跳・棒高跳での最高位が同記録の場合ジャンプオフは実施しない。その場合、無効試技の回数で順位を決めるが、それでも決まらない場合は、生年月日の早い者を上位とする。

⑥ 走幅跳の踏切版の位置は、1m及び2mとする。



2018 国際ゴールドマスターズ 奈良大会

- ⑦ 三段跳の踏切版の位置は、男子は、5m・7m・9m・11m・13mとする。競技者は、自分の申告した踏切版位置で競技する。
- ⑧ 立五段跳の踏切版の位置は、男子5m・7m・9m・11m・13m、女子5m・7m・9m・11mとする。競技者は、自分の申告した踏切版位置で競技する。
- ⑨ 立五段跳においては、踏切ラインに触れないように両足を揃えて立ち、両足で踏切り、片足で左右交互に1歩・2歩・3歩・4歩跳躍し、5歩目は両足で着地する。
※ 審判が試技開始を示した後に、仕切り直したり、踏み切る瞬間に踏切ラインに触れたり、踏み切る前にジャンプするなど、足が動いた場合は、無効試技とする。

(3) 投てき競技について

- ① 試技順は、全競技についてプログラム記載の番号順とする。競技中に他の競技に出場する場合は、審判主任に申し出ること。その場合、トラック競技を優先し、フィールド競技については本人の希望による。試技順を適宜変更するが、その試技中に失った試技を要求することはできない。
- ② 各クラスのトップ8（同記録の競技者が複数ある場合はそのすべて）を決めるまでは、3回とする。トップ8による4回目以降の試技数は1回とする。競技進行上、4回目の試技順もプログラム記載の番号順とする。
- ③ 順位の決め方は、同記録の場合は生年月日の早い者を上位とする。砲丸投で同記録の場合は、2番目・3番目の記録で順位を決める。それでも決められない場合は、生年月日の早い者を上位とする。
- ④ 円盤投は、補助競技場で行う。
- ⑤ 計測については、砲丸投は1投ごとに計測する。その他は3投後に計測し、4投目以降は記録が伸びた場合のみ計測する。

8 その他

(1) 抗議について

競技の異議申し立ては、公式発表後30分以内に担当総務員へ申し出る。異議申し立てに対する審判長の裁定に納得できず上訴する場合は、所定の用紙に必要事項を記入の上、預託金1万円を添えなければならない。なお、この預託金は抗議が受け入れられなかった場合には没収される。

(2) 表彰について

- ① 各クラス・種目の1位から3位の入賞者には、賞状及びメダルを授与する。また、4位から8位までの入賞者には賞状を授与する。
- ② 世界記録達成者には世界記録証を、日本記録達成者には日本記録証を授与する。
- ③ 1位から3位の入賞者は、表彰式を行うので競技終了後20分以内に、速やかに表彰場所に集合すること。
- ④ 4位から8位の入賞者は、賞状配布場所で賞状を引き渡すので、本人が受け取ること。代理人の場合はその旨を申し出ること。
- ⑤ 優秀選手を、男女各1名選出する。
- ⑥ エキシビジョンレースについては、表彰はしない。

(3) 記録の発表は、アナウンスと記録掲示板(第1ゲート外側付近)への掲示による。

(4) 記録証を申し込んだものは、記録証配布場所(選手受付付近)で大会開催中に受け取ること。後日の送付は行わない。

(5) 応急処置

- ① 応急処置を必要とする事故が発生した場合、直ちに医務室で応急処置を行うが、それ以降の責任は負わない。応急処置以降の治療費等の経費は本人負担とする。
- ② 事故に起因して継続した治療を要することとなった場合は、大会実行委員会に連絡すること。

(6) 所持品類は各自で保管すること。万一事故があっても主催者側は、一切の責任を負わない。

(7) 主催者は個人情報に関する法令を遵守し、日本マスターズ陸上競技連合個人情報保護方針に基づき取り扱う。

・取り扱う個人情報

記録、氏名、性別、年齢、生年月日、住所、電話番号、メールアドレス、診療情報

・利用目的

競技運営に必要な掲載、掲示、連絡などのほか、参加者へのサービス及び安全を目的とし、大会協賛、協力、関係団体からの情報提供、保険、診療等に使用する。

(8) 大会中の映像、写真、記事、記録、氏名、年齢等のテレビ、新聞、雑誌、インターネット等への掲載権肖像権は主催者に属し、無断掲載を禁じる。

(9) 緊急地震速報、Jアラート、台風等による警報が発令された場合、大会を中止することがある。また、競技場近くで大規模な事件、事故が発生した場合も、主催者の判断により中止、中断をする場合がある。安全な大会運営にご協力ください。

(10) 日本記録は2018年8月31日現在、世界記録は2018年8月28日現在の記録です。

ハードル使用基準

性別	種別	クラス	種目	高さ	台数	第1Hまで	間隔	フィニッシュまで
男子	スプリント	M35~M45	110mH	99.1cm	10	13.72m	9.14m	14.02m
		M50・M55	100mH	91.4cm	10	13.00m	8.50m	10.50m
		M60・M65	100mH	84.0cm	10	12.00m	8.00m	16.00m
		M70・M75	80mH	76.2cm	8	12.00m	7.00m	19.00m
	ミドル	M80・M85	80mH	70.0cm	8	12.00m	7.00m	19.00m
		M35~M45	400mH	91.4cm	10	45.00m	35.00m	40.00m
		M50・M55	400mH	84.0cm	10	45.00m	35.00m	40.00m
		M60・M65	300mH	76.2cm	7	50.00m	35.00m	40.00m
女子	スプリント	M70・M75	300mH	70.0cm	7	50.00m	35.00m	40.00m
		M80・M85	200mH	70.0cm	5	20.00m	35.00m	40.00m
		W35	100mH	84.0cm	10	13.00m	8.50m	10.50m
		W40・W45	80mH	76.2cm	8	12.00m	8.00m	12.00m
	ミドル	W50・W55	80mH	76.2cm	8	12.00m	7.00m	19.00m
		W60~W75	80mH	70.0cm	8	12.00m	7.00m	19.00m
		M35~W45	400mH	76.2cm	10	45.00m	35.00m	40.00m
		W50・W55	300mH	76.2cm	7	50.00m	35.00m	40.00m
ミドル	W60・W65	300mH	70.0cm	7	50.00m	35.00m	40.00m	
	W70・W75	200mH	70.0cm	5	20.00m	35.00m	40.00m	

障害物競技の障害物の高さ基準

性別	クラス	種目	水濺に接した障害 それ以外の障害
男子	M35~55	3000mSC	91.4cm
	M80~75	2000mSC	76.2cm
女子	W35~75	2000mSC	76.2cm

投てき競技用具の最小重量基準

性別	クラス	砲丸	円盤	やり
		ハンマー		
男子	M35~M45	7.260kg	2.000kg	800g
	M50・M55	6.000kg	1.500kg	700g
	M60・M65	5.000kg	1.000kg	600g
	M70・M75	4.000kg	1.000kg	500g
	M80~	3.000kg	1.000kg	400g
女子	W35~W45	4.000kg	1.000kg	600g
	W50~W70	3.000kg	1.000kg	500g
	W75~	2.000kg	0.750kg	400g

走高跳のバーの上げ方基準

性別	クラス	練習の高さ	開始の高さ	上げ幅
男子	M35	1.35m	1.40m	5cm
	M40・M45	1.25m	1.30m	
	M50	1.20m	1.25m	
	M55	1.10m	1.15m	
	M60・M65	1.00m	1.05m	
	M70	0.95m	1.00m	
	M75	0.95m	1.00m	
女子	M80~	0.95m	1.00m	5cm
	W35	1.10m	1.15m	
	W40	0.95m	1.00m	
	W45・W50	0.85m	0.90m	
	W55・W60	0.80m	0.85m	
	W65~W75	0.75m	0.80m	
W80~	0.75m	0.80m		

棒高跳びバーの上げ方基準

性別	クラス	練習の高さ	開始の高さ	上げ幅
男子	M35	2.60m	2.70m	10cm
	M40	2.40m	2.50m	
	M45	2.30m	2.40m	
	M50	2.10m	2.20m	
	M55	1.90m	2.00m	
	M60	1.70m	1.80m	
	M65	1.60m	1.70m	
	M70	1.50m	1.60m	
	M75~M90	1.40m	1.50m	
女子	W35	1.60m	1.70m	10cm
	W40	1.50m	1.60m	
	W45	1.40m	1.50m	
	W50・W55	1.30m	1.40m	
	W60~W80	1.20m	1.30m	

※M75~M90の開始の高さ(1.50m) およびW60~W80の開始の高さ(1.30m) について、この高さ以下は行わない。